

# 後期臨床研修プログラム

## 【精神科】

基本的な精神医学的面接を実施し、適切な診断と対処・治療ができることで、心身両面からのトータルな問題解決能力を身につけ、適切な精神科専門医に紹介できるよう研修する。問題解決のために精神科医としてとるべき役割を学び、問題をトータルに捉え、患者をより高度な基本的知識、技能および態度が身につけられるよう研修する。

### ■プログラムの管理・運営

プライマリ・ケア医として、精神（心）の問題に対応出来るようになることをミニマム・リクワイアメントとする。

研修医に対し臨床経験4年以上の上級医が各々つき、直接指導を行う。また1名の指導医がこれらの研修医の指導担当に当たり、診療計画の推進にあたる。

### ■一般目標

精神症状を有する患者、ひいては医療機関を訪れる患者全般に対して、生物学的な面だけでなく、特に心理-社会的側面からも対応出来るために、基本的な診断及び治療ができ、必要な場合には適宜精神科への診察依頼が出来るような技術を習得する。具体的には、主要な精神疾患の診療を、指導医とともに経験する。

### ■行動目標

精神および心理状態の把握の仕方および対人関係の持ち方について学ぶ。

- (1) 心（精神）と身体は一体であることを理解し、患者-医師関係を良好に保つ。
- (2) 基本的な面接法を学ぶ。
- (3) 精神症状の捉え方の基本を身につける。
- (4) 患者家族に対し、適切なインフォームド・コンセントを得られるようにする。
- (5) チーム医療について学ぶ。

### ■経験目標

A 精神科診療の特性について学ぶ。

- (1) 精神疾患に関する基本知識を身につけ、主な疾患の診断・治療計画を立てることができる。
- (2) 精神症状に対する初期的な対応とケアの基本を学ぶ。
- (3) リエゾン精神医学および緩和ケアの基本を学ぶ。
- (4) 向精神薬療法の基本を理解する。
- (5) 簡単な精神療法の技法を学ぶ。
- (6) 精神科救急に関する基本的な評価と対応を理解する。
- (7) 精神保健福祉法（精神科入院形態他）およびその他関連法規の知識を持ち、適切な行動制限について理解する。
- (8) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制について学ぶ。

B 経験すべき診察法・検査・手技

- (1) 基本的な診察法
- (2) 基本的な臨床検査

C 経験すべき症状・病態・疾患

- (1) 頻度の高い症状
- (2) 緊急を要する症状・病態
- (3) 経験が求められる疾患・病態

D 緩和・終末期医療

緩和・終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- (1) 心理社会的側面への配慮ができる。
- (2) 緩和ケア（WHO方式がん疼痛治療法を含む）に参加できる。
- (3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。
- (4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。

